

西成連区新しいコミュニティ推進協議会だより

第2号

■発行日：平成二〇年一月一日 発行者：西成連区新しいコミュニティ推進協議会

一宮市小赤見字郷浦五三（一宮市西成出張所内）

電話：28-9002 ■

盛会だった西成エリアミーティング

谷一夫・一宮市長が基調講話

西成の恵まれた豊かな環境を大切に

西成地域のあり方を模索・検討する「西成連区新しいコミュニティ推進協議会」が発足したことを機に、去る8月27日、西成公民館（出張所）2階大会議室に、一宮市長の谷一夫氏を招き、西成エリアミーティングを開催しました。

当日の出席者は121名にも及び、会場は補助席を用意するほどの盛況でした。

谷一夫・一宮市長の基調講話をお聞きしたあと、お出かけいただいた西成連区のみなさんから、これからの西成についての夢や、熱い思いをお聞かせいただき、後世に誇れる「ニュー西成連区」づくりを目指した数々の発言を頂きました。

西成の成り立ちと歴史を踏まえ、現在の姿を見つめながら、これからの新しい西成づくりについて、有意義なお話し合いができたと思います。

●基調講話（一宮市長・谷一夫氏）

一宮市を築き上げてきた繊維産業は大きく変貌し、行政も中央集権から地方分権に移っています。行政と、地域に根づいてきた住民が積極的に参加いただき、相互に連携を保ちながら、街づくりをするチャンスが到来しています。

一宮市も合併を重ね、今では38万人を擁する大一宮市に発展いたしました。その歴史と伝統を生かすことが出来るように、連区制が堅持されています。西成連区は、地域の特殊性を生かし、活発な活動を展開されており、自信と誇りを持てる地域であります。

地域への交付金は、今ひも付きになっていますが、みなさんの総意で特色ある事業を展開できれば、統合し濃淡をつけることで、より一層充実した事業ができると思います。西成のみなさんが、目標をもって議論を深め、新しい西成づくりが出来るよう祈念いたします

10名の発言者のワンポイント発言要旨

- 地域への奉仕活動（MAC）郷土への奉仕活動を旗印に、世代を超えた仲間づくりをしました。これからの課題は、地域の伝統催事にも積極的に参加すること。
- 伝統のまつりを受け継ぐ（芝馬祭り保存会）小さな部落の小さな祭りですが、江戸代から受け継がれ指定された無形文化財。次代に引継ぐ責務を痛感している。
- 西成地域の街づくり（西成地域振興会）昭和12年に商工会として創設。観光資源の開発や情報を発信をしている。楽しく生活できる街を提言していきたい。
- 公民館の夏祭り（西成公民館）西成4校下（瀬部・西成・赤見・浅野）の皆さんが一堂に会するチャンスです。今年はチラシ、回覧版、TVでPRに努めました。
- 地域の子供たちを見守る（児童育成協議会）地域の小学生を対象に、地域ごとに子供会があり、活動しています。西成の将来を背負う子供たちを見守ってください。
- 老人クラブの活動（穂波会）地域の老人が相互に親睦を図ることを目指し設立された。事業としては、ちびっこ広場の清掃や名画鑑賞会などを企画、開催している。
- 無農薬（スローフード）野菜を求めて（自家菜園グループ）雑草が繁茂し不法投棄でゴミの山だった農地を、地主の了解を得て家庭菜園を楽しんでいる。管理に苦労。
- 西成のスポーツ団体活動（体育指導委員）老若男女が楽しめるニュースポーツ（インデアカ等）の普及を図っているが、参加者が年々減少し残念です。
- 児童の日常生活（瀬部小学校）児童の特徴は素朴で純情であり、地域は学校教育に寄せる期待は大きい。屋外での遊びが減少し、交友関係が希薄になった。
- 地域の要支援者活動（民生委員）児童の虐待が増加している。独り暮らし老人の動静や生活の様子を知ることは、年々困難になってきた。生命の尊さを重視している。（限られた文字数のため、要旨が充分記載できなかったことを謝す。文責：記者）